

## 連絡先

三重県総合文化センター 三重県文化会館 事業課  
(担当者)堤 佳奈  
(電話)059-233-1100 (Fax)059-233-1106  
(E-mail)tsutsumi@center-mie.or.jp

## 高齢者演劇のパイオニアが挑む全国3都市ツアー。 オーディションで選ばれた三重県内65歳以上出演者が決定。

劇作家・松井周氏によって高齢者演劇集団さいたまゴールド・シアターに書き下ろされた『聖地』は、安楽死をテーマとし、2010年に故・蜷川幸雄氏演出により初演されました。それから10年以上の時を経て、様々な価値観の分断が起きている現代。生命への想像力を失った“日本の今”を見つめ直す新たな作品『終点 まさゆめ』が誕生します。今作では、松井氏とともに介護×演劇の第一人者でもある菅原直樹氏が新たに加わり、クリエイションを行います。2024年5～6月には、彼らに縁のある岡山・三重・埼玉の3つの劇場で、65歳以上の出演者オーディションを開催。三重からは2名が選ばれました。プロの俳優と各地の65歳以上のシニアが混じり合い、観る者を揺さぶる問題作をお届けします。



撮影:平岩享

撮影:草加和輝

### 松井周(左)

劇作家・演出家・俳優。1972年東京都出身。明治学院大学演劇研究会で寺山修司や唐十郎のアングラ演劇に影響を受けたが、平田オリザの現代口語演劇と出会ったことをきっかけに1996年に劇団青年団入団。2007年に劇団[サンプル]を結成、青年団から独立。2010年にニューヨークタイムズで「日本における最も重要な演出家の一人」と紹介された。2011年『自慢の息子』で第55回岸田國士戯曲賞を受賞。伊、仏、米、台湾に続き韓国では2020年から3戯曲が翻訳上演されるなど、国内外から評価を受けている。

### 菅原直樹(右)

劇作家・演出家・俳優・介護福祉士。1983年栃木県宇都宮出身。桜美林大学文学部総合文化学科卒。平田オリザが主宰する青年団に俳優として所属。2014年に岡山県で「老いと演劇」OiBokkeShiを設立し、認知症ケアに演劇的手法を活用した「老いと演劇のワークショップ」を全国各地で展開。三重県文化会館「介護を楽しむ」「明るく老いる」アートプロジェクトなど、劇団外でのプロジェクト、招聘公演も多数実施している。平成30年度(第69回)芸術選奨文部科学大臣賞新人賞(芸術振興部門)を受賞。

## ■出演者オーディション

下記概要にて65歳以上の出演者オーディションを開催。合格者2名を決定しました。

### 【オーディション概要】

- 合格者 山田浩司(78歳/三重県名張市在住)  
今栄敬子(67歳/愛知県大府市在住)
- 日程 2024年5月11日(土曜日)、12日(日曜日) 両日共14時30分～17時30分
- 会場 三重県文化会館 大会議室
- 応募 応募数12名→オーディションを経て2名合格
- 備考 同様のオーディションを岡山・埼玉でも実施
- 稽古 【プレ稽古】2024年7月4日(木曜日)・5日(金曜日)  
【リモート稽古】2024年9月27日(金曜日)・10月9日(水曜日)  
【本稽古】2024年11月11日(月曜日)～28日(木曜日)

いずれも岡山芸術創造劇場ハレノワにて滞在稽古

# 作品内容

## ■創作の経緯

松井周氏が 2010 年に高齢者演劇集団さいたまゴールド・シアターへ書き下ろした『聖地』(演出: 故・蜷川幸雄氏)は、「安楽死」法が施行された近未来、とある高齢者施設を舞台に、居場所を失った高齢者たちの怒りや悲哀を描いた作品です。初演当時は、社会全体がまだ「安楽死」に対して実感が薄い状況がありました。それから 10 年以上経ち、急速に高齢化が進行。様々な問題、課題が浮き彫りになり、また「安楽死」を認める国が出てくるなど大きな変化に直面する事態になっています。



さいたまゴールド・シアター第 4 回公演「聖地」(2010)  
撮影: 宮川舞子

そうした状況を踏まえ、彩の国さいたま芸術劇場は 2021 年 2 月にさいたまゴールド・シアターによる『聖地』の改訂『聖地 2030』を企画しましたが折しもコロナ禍のため、公演中止となりました。

一方、2014 年に岡山県で、演劇と介護を掛け合わせた活動を行う「老いと演劇」OiBokkeShi を設立した主宰の菅原直樹氏は、認知症ケアに演劇的手法を活用した「老いと演劇のワークショップ」を全国各地で展開。2018 年、埼玉県での高齢者舞台芸術フェスティバル「世界ゴールド祭」での徘徊演劇「よみちにひはくれない」の上演をきっかけにイギリス版をロンドンで上演するなどその活動は世界に広がろうとしています。

同じく 2018 年、OiBokkeShi × 三重県文化会館の企画で、定年退職したシニアや介護関係者、認知症当事者による「老いのプレーパーク」が結成されました。2023 年には岡山芸術創造劇場とも協働で「岡山版・老いのプレーパーク」が誕生、2024 年 3 月に合同公演を実施しています。

菅原氏は『聖地 2030』に俳優として出演予定でワークショップに参加していたこともあり、松井氏の試みを実現したいという思いを持っていました。

こうした経緯から、岡山・三重・埼玉の 3 館共同で立ち上げた『聖地』改め『終点 まさゆめ』は、松井氏と菅原氏のふたりがタッグを組み、新たなテーマで作品創造に取り組みます。

## ■あらすじ

少し先の未来。

ちょうどいいサイズの欲望をちょうどよく叶えてくれる惑星「まさゆめ」。

そこで人生最後の日々を過ごそうとするために、

宇宙船に乗り込んだ 7 人の高齢な乗客たち。

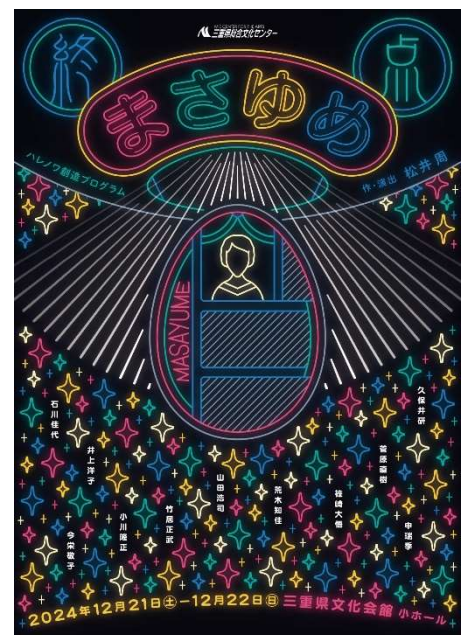
突然のハプニングにより宇宙船はそのままだと「まさゆめ」に辿り着けない。

そこで船長の提案により、乗客 1 人を船から降ろすことになった。

どうやら乗客同士の会議で決めるという。

人生の終盤に入った彼らにとってこの会議はどのような意味を持つのか？

儀式のように始まるこの再現劇は、一体どこにたどり着くのか？



# 公演情報

## 1. 公演概要

ハレノワ創造プログラム

「終点 まさゆめ」

- (1) 作/演出 松井周  
(2) 出演/演出協力 菅原直樹  
(3) 出演 久保井研、菅原直樹、申瑞季、篠崎大悟、荒木知佳  
石川佳代、井上洋子、今栄敬子、小川隆正、竹居正武、山田浩司 [オーディションキャスト]  
(4) スタッフ ドラマタッグ: 谷澤拓巳 音楽: 宇波 拓 舞台美術: 森純平/志賀耕太  
照明: 中山奈美 音響: 内海常葉、余傳莉彩(岡山芸術創造劇場スタッフ)  
舞台監督: 河内崇  
(5) 会場 三重県総合文化センター 三重県文化会館 小ホール  
(6) 日程 2024年12月21日(土曜日)14時00分開演  
12月22日(日曜日)14時00分開演  
\* 受付開始は開演の45分前、開場は開演の30分前  
(7) サービス 託児サービスあり(12月22日のみ/要予約/有料)  
(8) クレジット 企画制作 岡山芸術創造劇場  
主催 三重県文化会館[指定管理者: 公益財団法人三重県文化振興事業団]  
共催 レディオキューブ FM 三重  
助成 一般財団法人地域創造  
文化庁文化芸術振興費補助金  
劇場・音楽堂等機能強化推進事業(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業)  
独立行政法人日本芸術文化振興会

## 2. チケット

- (1) 料金 整理番号付自由席(前売・当日共)一般 3,000円、22歳以下 1,500円  
(2) 取扱 ○三重県文化会館チケットカウンター 電話 059-233-1122  
○WEB チケットサービス「エムズネット」<https://p-ticket.jp/center-mie/>  
○ローソンチケット Lコード: 43422 <https://l-tike.com/> ローソン・ミニストップ店内 Loppi  
(3) 発売日 2024年10月12日(土曜日)

## 3. ツアー情報

ハレノワ創造プログラム「終点 まさゆめ」

- 岡山 2024年11月29日(金曜日)~12月1日(日曜日) 3ステージ 岡山芸術創造劇場ハレノワ小劇場  
○三重 2024年12月21日(土曜日)、22日(日曜日) 2ステージ 三重県文化会館小ホール  
○埼玉 2025年1月11日(土曜日)~13日(月曜祝日) 3ステージ 彩の国さいたま芸術劇場小ホール

## 4. 添付資料

・チラシ

・公演 WEB ページ <https://www.center-mie.or.jp/bunka/event/detail/48617>